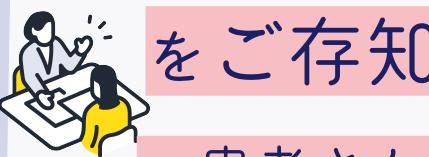


国立がん研究センター 東病院



がん相談支援センター



をご存知ですか

～患者さんとご家族の
くらしを支える相談窓口～

1. がんとくらし

がんの診断や治療は、患者さんの身体的負担にとどまらず、気持ち、仕事や家事といった生活上の制約、経済的負担、家族関係など、くらし全体に影響を及ぼすことが少なくありません。これらの影響は、ひとつの問題として現れるのではなく、複数の要素が重なり合い、治療の進行や生活状況の変化に伴って顕在化することも特徴です。

サポートティブケアセンター／
がん相談支援センター

坂本 はと恵
(さかもと はとえ)

2004年9月に国立がん研究センター東病院に異動、患者・家族支援相談室の立ち上げに携わる。
2014年4月にサポートティブケアセンター／がん相談支援センターに組織改組。
認定医療ソーシャルワーカー・社会福祉士・精神保健福祉士

2. がん相談支援センター

がん相談支援センターは、がんに関する情報提供や、療養生活上の困りごとの相談を受ける相談窓口として、2007年から全国のがん診療連携拠点病院等に設置されました。医療現場で働く基礎資格を有するがん専門相談員が、科学的根拠と実践に基づく信頼できる情報をもとに、患者さん・ご家族が納得して治療に向き合い、**その人らしい生活**を継続できるよう支援しています。



3. 相談の内容

がん相談支援センターで“よくお受けする相談内容”をご紹介します



信頼できるがん・療養生活関連の情報、患者会など療養生活に役立つ情報
(例: 国立がん研究センター“がん情報サービス”など)

情報の支援

通院や日常生活上の工夫、自宅での生活のサポート、家事・育児の負担、療養場所の検討、地域サービスの利用など

生活に関する相談

医療費負担、収入減少への対応、利用できる制度の整理、手続きのサポートなど

医療費負担など経済的な相談

不安や落ち込み、家族内の役割分担、周囲との関係、家族の気持ちなど

気持ち・周囲とのコミュニケーション

休職・復職、勤務調整、職場への伝え方、再就職、働き方の見直しなど

仕事と治療の両立就労に関する相談



4. 当院における「仕事と治療の両立支援」

当院のがん相談支援センターでは、治療と仕事の両立や就労に関するご相談に対応しています。労働問題の専門職（社会保険労務士・中小企業診断士）による個別相談に加え、ハローワークの出張相談もご利用いただけます。

がん専門相談とあわせて、

- 労働制度・社会保険制度の整理
- 休職・復職の進め方
- 働き方の調整
- 再就職活動の進め方



などについて、専門的な支援を受けることができます。

がんと診断されても「できるだけ仕事を続けたい」「治療後にまた働きたい」と考える方は少なくありません。治療計画や体調の変化を踏まえた現実的な見通しを立て、利用できる制度や支援を整理することは、生活を安定させるうえでとても大切です。どうぞお気軽にご活用ください。



5. ご家族も、遠慮なくご利用ください

がんの治療が進むにつれ、ご家族の生活スタイルも少なからず変化していきます。これまで患者さんが担っていた役割を家族で分担しなければならない場面も多く、その負担は患者さんだけでなく、ご家族にとっても大きなものです。

また、ご家族の中には「再発や転移はないだろうか」「今の治療をこのまま続けて良いのだろうか」と将来への不安を抱える方も少なくありません。さらに、身近で支える立場だからこそ、「自分には何もしてあげられない」と強い無力感を覚えてしまうこともあります。

そのようなときは、ご家族だけで抱え込む必要はありません。医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなど、話しやすい医療スタッフにぜひご相談ください。サポートしてくれる人を増やすことで、ご家族の気持ちが少し軽くなることがあります。

6. 相談の方法



がん相談支援センターでは、電話相談・対面相談を受け付けています。匿名での相談も可能で、相談内容の秘密は厳守されます。費用は原則無料です。

ご相談は、診断直後から治療中、治療後の生活まで、治療のどの段階でもご利用いただけます。具体的な相談がまとまっている場合や、「まずは窓口の場所を知っておきたい」という目的でもお気軽にお越しください。「もしかしたら自分にも当てはまるかも」と感じることがありましたら、どうぞ遠慮なくお声掛けください。

がん情報サービス



がんについて正しい情報を知りたい方は、国立がん研究センターの公式サイト“がん情報サービス”(ganjoho.jp)もご活用ください。

